

	研究課題名	研究の概要	研究フィールド	研究代表者			他の構成メンバー		
				所属	職	氏名	所属	職	氏名
社会・生活基盤分野（5課題）	三陸復興国立公園・三陸ジオパーク指定のための震災遺産等の保全、国立公園利用施設計画（インフラ）及び震災語り部（ジオパークガイド）育成に関する研究	三陸ジオパーク・三陸復興国立公園（仮称）の指定は、地域の活性化、まちづくりに大きな効果を持っている。震災遺産を国立公園等の指定により保全管理するほか、これらをビジターセンターなどに展示し、後世に語り次ぐことが必要であり、このためには、国立公園の保護計画・利用計画に位置づける必要がある。このための資料の収集、計画案の作成を行う。また平常時はジオパーク・国立公園の震災ガイド、緊急時には住民の避難指示が可能な震災語り部（ジオパークガイド）の養成を行うための指導書の作成を行う。	洋野町 久慈市 野田村 普代村 田野畑村 宮古市 釜石市 大船渡市 陸前高田市 その他	総合政策学部	教授	渋谷 晃太郎	総合政策学部	准教授	伊藤 英之
	被災地の復興過程における住民意識の研究	本研究では、被災地（主に大船渡市）の住民を対象とする意識調査を実施し、被災後の生活状況や将来への意向をモニタリングする。また住民の意識から、地域の産業・経済やインフラシステムの復興の効果や有効性を測る。復興に向けた住民の意識は時間の経過とともに変化することが想定できるため、長期的に継続調査を実施する必要がある、この調査をその第1次調査と位置づける。なお、本研究は、総合政策学部内の防災復興研究会における社会調査チームとして実施するものである。	大船渡市	総合政策学部	准教授	阿部 晃士	総合政策学部	教授	倉原 宗孝
	中・長期的視点に立った地域復興・防災教育プログラムの開発と実践	本研究では、中長期的に地域防災の主役となる小・中学生を対象とした地域復興・防災教育プログラムを開発し、実践・評価する。小中学生を対象に教育を行うことは、直接的に地域の将来を担う若年層への意識向上をもたらす。間接的には、子供を通じた親世代、高齢者世代への啓発活動につながる。世代交流を通して、災害に強いコミュニティ形成を目指すものである。	大船渡市 陸前高田市	総合政策学部	准教授	伊藤 英之	地域政策研究センター	客員教授	吉川 肇子
	仮設住宅の改善および仮設住宅地におけるまちづくり提案	仮設住宅の建設において釜石市平田地区、遠野市の仮設住宅など積極的な提案を行ってきたが、緊急に大量の仮設住宅の建設が迫られたため、物的バリアフリー、温熱環境の課題、集会所等利用施設の不足など課題も残すこととなった。既に一部に仮設住宅を出る者も出ている。これらの仮設住宅そのもののレベルアップにかかる整備の他、今後は、仮設から復興に向けて、居住者の転出を踏まえた、空きの出た仮設住宅の活用など、段階に応じて仮設住宅を変化させていく提案が必要がある。これまでもバリアフリーの対応等を行ってきたが、ほとんどの住宅地で問題点は挙げられているものの、改善、提案がなされていない。岩手県立大学には建築分野の研究者が数名いて、従来から協力体制ができていた。それぞれの特技を活かし、まず、取り残される傾向にある、高齢者、障がい者などのハード面の対応を中心に、サポートセンター等の拠点における支援のあり方、使い方の提案を行う。次に断熱性が十分でない仮設住宅の温熱環境の現状を把握し、特に、冬に向けての対応、提案を行う。	野田村 大槌町 釜石市 大船渡市 陸前高田市 その他	社会福祉学部	教授	狩野 徹	盛岡短期大学部	准教授	本間 義規
	在宅療養者の被災実態と防災教育の取り組みの方向性	在宅療養者に対する災害情報、避難誘導システムとそれらを活用した安全安心なまちづくりの構築を目標とする。そのため県内の在宅療養者の被災状況の把握を通じて、岩手県の地域特性も考慮した在宅療養者の避難誘導と日ごろの防災教育のあり方を検討する。	その他	看護学部	准教授	上林 美保子	看護学部	助手	藤村 史穂子